

収入向上・女性の自立

ナバルタビと老眼鏡 ピラーンの伝統を守るためにできること

言語や文化がよく似ているピラーンとティボリ。このふたつの民族の伝統織物は、ナバルタビ(ピラーン)もティナラク織(ティボリ)も原材料、技法は同じです。デザインは織手にもよりますが、ナバルタビの方が、より精緻で繊細な印象を受けます。



グサベンさんは熟練織手 5 人のうちのひとり

2006 年にポロモロック町アムグオ村に、松尾基金で「織の家」を建設しました。現在も数名の熟練織手が地元の祭りでの需要や HANDS の帯地注文がある時に、農作業の合間に織っています。

担当の元奨学生スヌーリアを通じて、染色用壺 2 個と老眼鏡の支援要請がありました。

老眼鏡の方は不要のものをご寄贈いただければ、6 月中旬の訪問時に持参いたします。必要個数は、5 人の織手と研修中の 3 人を合わせて 8 人分です。度数は問いません。

ご協力いただける場合は 6 月 5 日までに本部事務局へお届けください。(担当・山崎)



スヌーリアと九島さん。ナバルタビを手にして。

成果が見えてきました！ COWHED の取り組みとわたしたち

夏の観光シーズンを迎えるレイクセブの「伝統の家」。マネージャーのジェマさんと打ち合わせをしていると、ひっきりなしに人が訪れます。マイクロファイナンス事業を利用しているハンディクラフト生産者や、スカイラブ(乗合バイク)ドライバーたちが、その返済や相談に来るのです。11月19日から始まったこの事業は5月に半年間のパイロット期間が終了します。一旦評価をした後で再開し、1年が終了する11月には利子分で運営費全体を賄えるようになる計画です。ローン対象者向けの「ビジネスプラン・セミナー」や「起業セミナー」は、ILO担当者だけでなく、研修を受けたスタッフも実施します。ローン利用者も増えていますが、現在は手書きの通帳管理のため担当者の負担もあり、利用者の数を大きく増やすのは難しそうです。それでも、1回目をすでに返し終え、2回目、3回目を借りて返しているところだという借り手もいて、小さな商いをしている地元の人たちが、必要な時に商売を少し大きくする原資を得るのに大いに役に立っているようでした。



縫製担当フロリタさん。自分でデザインしたカードケースと。

ハンディクラフト事業は、3月にバギオ市のフラワーフェスティバルに出展し、マイダさんとマリアさんが参加しました。コ罗纳ダル市からは市庁舎を訪れる訪問者や、市長の海外視察の際のお土産として注文を受けています。HANDS支援した足踏みミシンを活用して、縫製ができるメンバーも増えていて(写真)、ティナラク織り、ビーズ細工とともに新しいデザインが増えました。

1ページにあるように、今年度は14回のイベントでの販売を予定しています。販売手伝いを募集中です。また、青葉台駅前事務所にはたくさんの在庫がありますので、ぜひ立ち寄って触れてみてください。